

令和5（2023）年度第1回栃木地域公共交通活性化協議会県央地域部会
議事録（議事概要）

開催日時：令和5（2023）年7月5日（水）10:00～11:30

会議方式：オンライン（事務局：栃木県県庁）

1. 出席者

令和5（2023）年度第1回県央地域部会 出席者名簿

1 委員

No.	区分	所属		役職	氏名	備考
1	地方公共 団体	栃木県	県土整備部 交通政策課	課長	横尾 元央	部会長
2		宇都宮市	総合政策部 交通政策課	課長	田代 卓也	
3		鹿沼市	市民部生活課	課長	佐藤 美樹子	(代理) 主任主事 廣田 俊
4		日光市	建設部 都市計画課	課長	小菅 茂雄	
5		真岡市	総合政策部 総合政策課	課長	関根 和弘	(代理) 主査 小林 大貴
6		下野市	市民生活部 安全安心課	課長	上野 和芳	
7		上三川町	地域生活課	課長	大山 光夫	(代理) 統括主査 杉山 昇
8		益子町	総務部企画課	課長	石塚 誠	(代理) 主任 五月女 直人
9		茂木町	企画課	課長	小河 克紀	欠席
10		市貝町	企画財政課	課長	滝田 弘行	(代理) 主査 平野 路也
11		芳賀町	建設産業部 都市計画課	部長兼課長	赤澤 幸男	(代理) 課長補佐兼係長 小林 誠
12		壬生町	総務部 総合政策課	課長	佐々木 正裕	(代理) 主査 福田 和也
13		高根沢町	地域安全課	課長	阿見 弘一	(代理) 課長補佐兼係長 齋藤 理
14		塩谷町	くらし安全課	課長	吉成 伸夫	(代理) 係長 磯 修治
15	公共交通 事業者	東日本旅客鉄道(株)	大宮支社 経営戦略ユニット	ユニットリーダー	伊藤 滋	
16		東武鉄道(株)	経営企画本部	課長	金子 悟	(代理) 部員 岸 佑太郎
17		真岡鉄道(株)		専務取締役	上野 公男	
18		野岩鉄道(株)		常務取締役 総務部長	中川 浩然	
19		わたらせ渓谷鉄道(株)		代表取締役	品川 知一	
20	一般乗合 旅客自動車 運送事業者	関東自動車(株)	路線バス部	部長	福島 宗文	
21		ジェイアールバス関東(株)	宇都宮支店	支店長	坂本 将	
22		東武バス日光(株)		取締役 運輸統括部長	田端 将之	
23		日光交通(株)		専務取締役	川嶋 一修	
24	公共交通 関連団体	(一社) 栃木県バス協会		専務理事	小矢島 応行	
25		(一社) 栃木県タクシー協会		専務理事	鉢村 敏雄	欠席

2 栃木県

No.	区分	所属		役職	氏名	備考
1	県	県土整備部交通政策課		課長補佐(総括)	原田 和彦	事務局
2		"	公共交通担当	課長補佐	亀山 泰剛	"
3		"	"	主査	菊池 弘幸	"
4		"	"	主査	小林 正孝	"
5		"	"	主事	遠藤 大樹	"

2. 議題

- (1) 開会
- (2) 令和4（2022）年度 栃木県地域公共交通活性化協議会の開催状況について
- (3) 栃木県地域公共交通計画（仮称）に向けた意見交換
- (4) その他
- (5) （閉会）

3. 協議事項

(1) 開会

- ・ **【事務局】** 令和5年度第1回県央地域部会を開催する。本日は、20人の委員の方に出席を頂いており、規約第六条第二項に定める定足数に達しているため、協議会が有効に成立していることをご報告する。
- ・ **【横尾部会長】** はじめに議題1の令和4年栃木県公共交通活性化協議会の開催状況について、事務局より説明する。

(2) 令和4（2022）年度 栃木県地域公共交通活性化協議会の開催状況について

- ・ **【事務局】** 資料1について説明した。
- ・ **【横尾部会長】** 意見が無かったため、次の議題に進む。

(3) 栃木県地域公共交通計画（仮称）に向けた意見交換

- ・ **【事務局】** 事務局から、資料2（P1-15まで）について説明した。
- ・ **【横尾部会長】** 宇都宮市は公共交通利用促進運動として「MOVENEXT宇都宮」を行い、バスの再編と開通を検討されているが、利便性・公益性向上のための具体的な取り組みについて説明いただきたい。また持続可能性の向上に向けて、県への具体的な要望もあればご意見いただきたい。
 - **【宇都宮市】** 宇都宮市の施策について説明する。1点目として、今年の8/26にLRTが開通し、それに合わせて宇都宮駅東側のバス路線について再編する予定で進めている。また、路線バスにつながるような地域内交通についても郊外部を中心に整備を進めている。特に宇都宮駅東口側については、公共交通ネットワークが構築されていく段階に入るため、「MOVENEXT宇都宮」と掲げ、公共交通の利用促進運動と合わせて積極的に展開予定である。一方で、市全域を捉えた時に将来に向けて宇都宮駅西側へのLRT導入を検討しているが、まずは宇都宮市ネットワーク型コンパクトシティを進めている。また、拠点間を結ぶバス路線の維持充実についても取り組む予定である。バス路線に対する赤字補助のスキームについては、今年度見直しを行い、拠点間のバス路線はできるだけ運行本数が高く設定できるよう、ネットワーク型コンパクトシティに資するような補助スキームに変えている。また、

ネットワーク型コンパクトシティに資するような広域の周辺市街を結んでいる広域の路線維持充実を図る際、補助制度の制限等があるため、利便性の高いバス路線で公共交通ネットワークが作れるような支援制度・補助制度の見直しをぜひ図っていただきたい。

➤ 【横尾部会長】宇都宮市で進めているネットワーク型コンパクトシティ含め、重要な考えと認識している。持続可能性を確保する観点について、県計画の目標への位置づけを検討する。

・ 【横尾部会長】日光市では公共交通の持続性を重視しているが、地域組織が主体となる地域交通への取り組みについて具体的な説明と、公益性・持続性・可能性を確保する上で県への要望があればご意見いただきたい。

➤ 【日光市】まず1点目の持続可能性の観点では、今年の3月に地域公共交通計画を策定しており、その中の目標に持続可能性の観点を掲げ、取組んでいる。また、地域が主体となった取組については、地域内公共交通を導入することを重点として掲げているが、現在日光市においては地域内交通を運用しているため、そちらに対する支援を行っている。今後は人口減少により財源も限られてくることから、各地域の状況に応じ地域が主体となって運営できる交通手段を選択できるように進めることを検討している。これからは、広報等、地域内交通の案内について進めていくような状況である。日光市は観光地のため、観光・地域振興についても重要である。鉄道・バス関係については、安定的に継続運行ができるような政策を県の方にも支援していただきたい。

➤ 【横尾部会長】地域が主体となって、限られた財源の中で効率よく実施するということが非常に難しいことは承知している。日光市は観光地になっていることから、在来線も含めた鉄道・バスの持続可能性が重要であることも承知した。広報活動に力を入れる話があったが、詳細に説明いただきたい。

➤ 【日光市】広報周知が必要と考えているため、今年度から2カ月に1度の連載記事を掲載して周知を図る取り組みしている。また、日光市は市域が広いため、各地区の状況を自治会単位で意見聴取しながら進めることは重要だと考えている。

・ 【横尾部会長】下野市では外出支援事業として高齢者や免許返納者へ手厚い支援を行っているが、具体的な取り組みについてお聞きしたい。また今後の取り組みについて県への要望があればご意見いただきたい。

➤ 【下野市】実施している支援として外出支援を行っている。対象者は、特に高齢者と子育て世代である。地域的に自家用車で移動が中心となっている地区であるが、自分では運転できない方々に外出いただき、交流を育む意味で実施している。また、免許返納の場合も80歳以上に対する外出支援策を実施していたが、今年度は75歳まで年齢も引き下げてきた。子育て世代については引き続き強く進めていきたい。県への要望として、広域的な路線の運行について、市町間連携を踏まえた計画にしていきたい。

➤ 【横尾部会長】広域的な路線に関する支援は一定数望まれており、県計画に記載する。市

町外出支援事業として80歳以上の方から75歳に下げること対象者を拡大する取組を行っているが、住民のニーズや利用者は増えているのか。また、ゆうがおバスのバス路線として石橋駅から独協医大まで、実証実験を行っているが、利用状況を教えていただきたい。

➤ 【下野市】 外出支援事業の新規利用者は増加傾向である。実証実験では今月から運行を開始して高齢者、子育て世代の方々が利用している。

・ 【横尾部会長】 芳賀町でもLRTが開業に伴うバス路線再編の取組みについてご説明と、他地域との繋がり・公益性の向上について県への要望をお伺いしたい。

➤ 【芳賀町】 現在取り組んでいるのは、路線バスがない北部エリアに宇都宮市と共同でLRTを開業し、南部・中央部に関しては路線バスが走行している。その他、デマンド交通も全域運行しており、交通空白地域はゼロである。新しい交通モードが導入されることで、町民の公共交通利用に対する機運は高まっている状況であり、今後10年後ぐらいに学生の町外への進学が予想されるが、公共交通で通学できる環境が整うことで、その先の就職・大学進学も家から通える環境を作ることとなり、それが定住に繋がると考えている。令和6年度からはLRTに接続するバスの運行を検討している。また、利便性を重要視したいが、どこまで収益性を設けられるかという点で悩んでいる。県への要望として、他地域との繋がりを一番に挙げているが、役割分担として町は地域内交通、県が広域的交通ということで、役割分担が出来ている。地域との繋がりというところで、県内の交通利便の格差をなくしていくことを県で一番に取り組んでいただきたい。その代わり町としては地域内の公共交通を充実させていく役割があると考えている。

➤ 【横尾部会長】 定住圏を確保する観点で具体的なビジョンを掲げていることを理解した。芳賀町は人口も増加している中で公共交通施策についても積極的に取り組んで頂きたい。

・ 【横尾部会長】 壬生町では町内を循環するコミュニティバスの実証運行に取り組まれているが、利用状況とルート再検討について具体的な説明をいただきたい。また環境や他地域へのつながりの点で県へのご意見を伺いたい。

➤ 【壬生町】 今年の2月から、町内循環するコミュニティバスの実証運行を開始した。また町内でデマンドタクシーを運行して10年目になる。一定程度住民の利用もあるが、利用者からは、予約をしてから実際にタクシーが来るまでの待機時間が読めないこと、コミュニティバスの方が時間を推測しやすいという意見も頂いている。町内の循環バスの他にも、壬生高校と東武壬生駅を往復する路線も実証運行している。既存のコミュニティバスよりも安定的な利用のため、モデルケースになってくると認識している。実証運行ということで、今月7月から8月にかけてバスを実際に利用する方に向けて利用者アンケートを実施する。そちらの内容も含めルートの方は検討する。超高齢化社会を迎える中で、自家用車での移動に頼らない公共交通での輸送が必要となる。公共交通の維持や充実、持続可能な公共交通にするには、実証実験を踏まえた本格運行が必要と考えている。実証運行に柔軟に対応するため、県に財政支援をお願いしたい。

➤ 【横尾部会長】 栃木県としていただいた要望について検討している最中である。

- ・ **【横尾部会長】** わたらせ渓谷鉄道ではバス路線と連携し、観光にも対応されているが、その視点からご意見などあれば伺いたい。
 - **【わたらせ渓谷鉄道】** わたらせ渓谷鉄道は、地域の方々に乗車していただく生活路線が本来であるが、事業性の観点から観光路線も行っている。特に足尾地域は、首都圏あるいは日光方面からの来訪者も含め、地域振興という役割が大きい。そういう意味では、乗客数だけ見るのではなく、地域への貢献度等その他の尺度も検討いただき、自治体からの支援を期待する。
 - **【横尾部会長】** 公共交通の在り方として、地域の足だけでなく観光や地域活性の視点も含め、計画づくりに反映していければと考えている。

- ・ **【横尾部会長】** 続いて、2019年の9月に策定した栃木公共交通広域ネットワークガイドラインに基づき、計画における共同者の役割分担について、事務局より説明する。
- ・ **【事務局】** 役割分担（資料2のP16）について説明した。
 - **【芳賀町】** 目標のレベル感が異なることについて話があったが、幹枝葉で運行することを維持するためには、沿線の市町や交通事業者との連携が必要不可欠であり、「目標⑤ 多様な主体が連携し、共創する公共交通」内の交通事業者との連携は際立たせても良いと思う。
 - **【横尾部会長】** 目標のレベル感については、委員からも指摘があったため、修正しているところであるため、いただいたご意見の反映も併せて検討する。

(4) その他

- ・ **【事務局】** 地域部会は、今年度も活性化協議会と合わせて何回か開催する予定のため、ご理解ご協力をいただきたい。また本日の意見交換を経て、アンケートの記載内容の加筆修正等ある場合は、1週間を目途に事務局までご連絡いただきたい。
- ・ **【横尾部会長】** 全ての議事が終了したため、事務局にお返しする。

(5) (閉会)

【事務局】

第1回県央地域部会を閉会する。